

県立明石公園には野球場、陸上競技場などさまざまなスポーツ施設があります。休日になれば若者たちの歓声が聞こえてくる。野球場では今年も甲子園出場を目指す高校球児が炎天下、熱戦を繰り広げました。

しかし62年前、この公園で悲惨なことがありました。公園に避難していた学徒動員の学生が米軍の空爆を受けて大勢亡くなられたのです。避難している学生を目標に爆弾を投下するとは。るいといと横たわる死体。無残な情景は今でもまぶたに焼きついています。

県立図書館の前に明石空襲犠牲者の慰霊碑があります。私は碑の前を通る時は自然と頭が下がります。戦争を知らない若者が多くなっていますが、できれば空爆犠牲者の心情をくみとり慰霊碑の前で手を合わせてほしいと思います。

戦後62年になるが、テロ、地域紛争はいつも世界のどこかで起きている。特にイラク戦争は開戦から約5年近くになるが武装勢力との激しい衝突や無差別のテロが絶えません。加えて幼い子どもや女性、老人を含め罪のない非戦闘員が大勢、戦禍に巻き込まれ犠牲になっている。痛ましいかぎりである。政治的な対立に戦争になるのはやむを得ないがいつの時代でも犠牲を強いられるのは弱い立場の市民ばかりです。

悪夢の戦争を反省して平和国家の進路と人権擁護に果している平和憲法「9条」を改正して外国に軍隊派遣をとの声が大きくなってきた。しかし憲法は敗戦後の焦土に差す光、日本の希望ではなかったのか。先の衆院選で「護憲のシンボル」と言われた社民党の土井たか子元社民党首が議席を守れなかった。兵庫県民として残念の一言です。

日本は世界で唯一の被爆国です。戦争の惨状、痛みはどこの国民よりも分かっています。戦後平和憲法を維持してきた、「非現実的な一国平和主義」と国際社会から非難されるだろうが、今日まで貫いてきた世界平和への道を歩み続けるべきだ。憲法改正には断固反対する。

兵庫県明石市
戸田勝義